Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第14号

NPO 特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会事務局
〒141-0021　東京都品川区上大崎 3-1-1
JR 東急目黒ビル 7F
TEL(03)5435-5977，FAX(03)5435-5978
http://www.jyfa.org
編集・発行人　初鹿野惠蘭
2004 年 7 月 1 日発行

2004年度 小学校建設候補地視察報告

☆瀾滄ラフ族自治県
☆玉溪市元江県青龍場

2004年4月29日夕刻、雲南省に出張中の初鹿野理事長から東京の事務局に一本の電話が入りました。「今から一晩車を走らせて学校建設候補地を見に行くから」。今回の視察地、行き先は「瀾滄ラフ族自治県」とのことです。いったいどんな少数民族の住む、どんな場所なのでしょうか。

雲南省の首都昆明市から南西へ、瀾滄江※ を越え景洪の少し北に今回の視察の目的地「瀾滄ラフ族自治県」があります。（下の地図をご覧ください）舗装されていない山道を通って車を走らせラフ族の子供たちに会いに行きます。瀾滄ラフ族自治県は中国全土で唯一のラフ族自治県で、人口は46万9479人。瀾滄ラフ族自治県は、総人口の

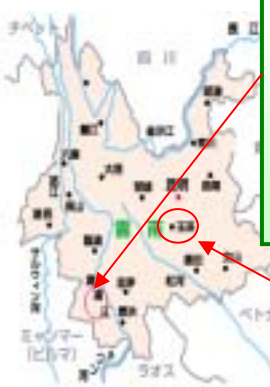
ラフ族の子供たちが日本から視察にきた
初鹿野理事長を迎えます

ラフ族の子供が通う小学校

76.3％が少数民族で構成され、43％がラフ族です。

瀾滄ラフ族自治県は高齢者が多く、ミャンマーに接する辺境の山地で大変貧しい県です。雲南省の中で二番目に大きな面積の県で、全県の98.8％が山であり、瀾滄江が県内六つの郷を通っています。海抜差が激しいので（最高海抜2516m最低海抜578m）地域によって実に様々な気候の特徴を持っています。

（※中国でいう「瀾滄江」は、メコン川のことです。瀾滄江は揚子江、黄河に次ぐアジア第3の大河で、チベット高原を源とし、雲南省をぬけ、ラオス、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムを経て南シナ海に注いでいます。）



瀾滄ラフ族自治県

P3で紹介
もう一つの視察地
玉溪市元江県

ラフ族がお客様を歓迎する伝統的なダンス

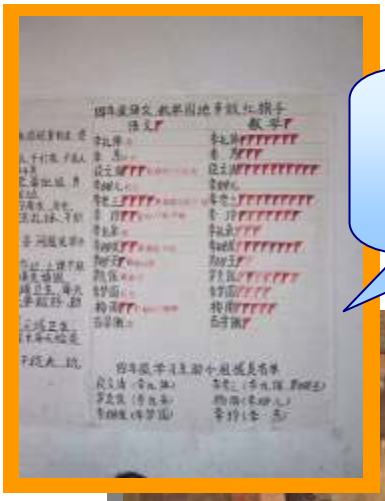
壮大な瀾滄江とともに暮すラフ族の子供たち

ラフ族の男の子

わたしたちはラフ族です。中国で、ラフ族自治県としてはここが唯一です

小学校、子供たちの宿舎のベッド

授業風景　一年中裸足で生活する児童もいます



教室に貼ってあるみんなの頑張り表赤い旗はごほうびスタンプです。

村の食堂

お客さんが見ているから緊張するな…

一年中裸で過ごす子供　初鹿野理事長と

2004年6月2日、初鹿野理事長は再び雲南省学校建設地視察に向かいました。

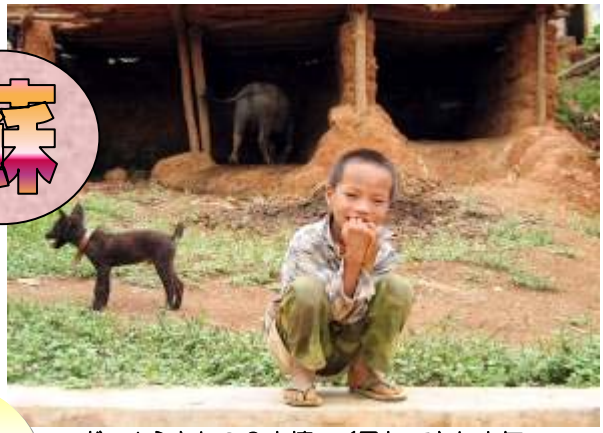
今回訪れたのは玉渓市の中の貧困県、元江県青竜場鎮に属する寒及沖村です。ここには、イ族の古い系統をくむ「山蘇人」の家族が20数件集まって村を形成しています。彼らの住居は木と土で作られる「土掌房」と呼ばれ、内部は土の壁がそのままの状態です。電気や水道はなく、衛生的にも問題のある環境の中、暮らしています。「山蘇人」は長い貧困の歴史からか自信を失っており、何とか少しでも豊かな生活にしたいと願っていますが、この地域は交通が不便で、発展から完全に取り残された状態になっています。

「山蘇人」のように、「○○人」と呼ばれるのは、少数民族として認められていないさらに少数の民族（5000人以下）を指します。

同じく雲南省の「モソ人」は通い婚の習慣が日本でも有名ですね。

ここは僕たちの遊び場だよ

家の中で



どこからきたの？人懐こく尋ねてきた少年

家の内部　ここで炊事します。

今回の瀾滄ラフ族自治県・玉渓のほかに、怒江州ヌー族の地域・シャングリラなどを加え、6校目、7校目の建設地を検討していきます。協会の方針は、一番必要とされている場所に小学校を建てることです。現地の視察は学校づくりの一番重要な段階で、毎年何度も重ね、慎重に建設地を検討しています。

村人たちの手で作られる土の住居「土掌房」

環境問題プロジェクト

当協会では、昨年度より水質の汚染が深刻な問題となっている雲南省昆明市、滇池（昆明湖）の水質改善に取り組んできました。昨年暮れには滇池管理局の技術者らが来日、琵琶湖の視察や分析センターのセミナーを受けました。

この取り組みの第2段階として、去る4月30日～5月5日まで、雲南省昆明市にて信州大学教授・中本信忠先生による環境問題セミナーが開催されました。

セミナーの参加者と共に　中央）中本先生

ボートに乗って滇池を視察
左）初鹿野理事長　右）中本先生

河川や湖沼の水質と生物の関係の専門家である中本先生は、滇池管理局の技術者たちを前に、熱心に安全でおいしい水を守る緩速ろ過装置について講義してくださいました。

雲南省へ実際に行かれた中本先生は、この汚染された滇池の状況をなんとかしなければという思いをいっそう強くされたそうです。

6月には雲南省より再び滇池管理局の技術者が来日し、「不耕起農法」などについて学びます。

環境問題への取り組みは次世代への義務です。雲省の子供たちの未来のためにも取り組まなくてはならない大切な事業と考え、協会も全力で協力しています。

今回、セミナーのために雲南省へと赴いてくださった中本先生、本当にご苦労様でした、そしてありがとうございました。

昆明市内の田植え作業を見学
不耕起農法が試験的に実施され始めている

講義は中本先生の流暢な英語で行われました

中本信忠先生の紹介
（信州大学　繊維学部応用生物科学科教授）

生物の立場で水質・水環境を考え、自然界の生物現象を解析。それを応用学部の研究者・教官として人間社会に役立てようとしてきた。ダム湖富栄養化現象、淡水赤潮、生物の立場で水質を評価する。現在、「生でおいしい水道水（築地書館）」を出版し、緩速ろ過処理の素晴らしさを皆に知らせようとしている。バングラディッシュでの砒素汚染でも緩速ろ過で安全な飲み水を作ろうとしている。

雲南少数民族風情展

2004年4月17日～28日　新宿アクロス中国にて

麗江トンパ研究院の和先生が書いてくださった看板と衣装が会場入り口でお出迎えしてくれます

4月17日～28日まで、東京新宿の中国専門旅行社「アクロス中国」のイベントスペースにて、雲南少数民族風情展を開催しました。会場では、日本雲南聯誼協会の紹介や少数民族の紹介、トンパ文化の展示、さらには雲南省の特産品プーアル茶や田七の展示、試飲試食、民族衣装の展示試着、雲南省の雑貨のチャリティバザーを行いました。

期間中何度も足を運んでくださる熱心な方や、胡弓や中国琵琶を持って会場を訪れる方など、500人以上の来場者がありました。この展示会を見て少しでも多くの人が雲南省と当協会の活動に関心を寄せるきっかけとなったことは、私たちにとっても大きな成果です。今後も、少しずつ活動の輪が広がることを願っています。

展示会に携わった会員や学生などボランティアの皆様、有難うございました、そしてご苦労様でした。また、特に、会場の準備から期間中のボランティアまでたくさんのお力を下さったJR総連、JR貨物労組の皆様、本当にありがとうございました。そして、快く会場、人手を提供してくださった、共催のアクロス中国様にも感謝申し上げます。

非常感謝！

皆の笑顔でいっぱい！

トンパ文字「笑顔」

4月18日ボランティアの皆さんと
チャリティバザーコーナーの前で

おかげ様でこの雲南少数民族風情展にて、95,014 円の収益を上げることができました。ありがとうございます。今回の展示会での収益金も、前回と同様、雲南省の貧困少数民族の子供たちへの教育支援資金とさせていただきます。

今後風情展は、展示内容をより豊富にし、他の地域でも開催できたらと考えております。会員や協力者の方からのご要望があれば、その地域に雲南少数民族風情展が出張します。ぜひ事務局にお問い合わせください。

さっそく、次回は今年10/2－3に東京・日比谷公園で開催される「国際協力フェスティバル2004」に参加する予定で、ただいま参加申請中です。このフェスティバルは国際協力に携わるNGO・NPOが一堂に会する日本最大の国際協力イベントで、昨年は8万人を超す来場者があったそうです。

日本・雲南聯誼協会の歴史を一緒に辿りましょう！

当協会の活動の足あと紹介の展示コーナー

協力して会場準備

雲南少数民族風情展の会場準備に当たり、法人会員のJR総連・JR貨物労組に皆さんが展示品の運搬、会場セッティングを手伝ってくださいました。また、協会ボランティアの皆さんも協力して看板取り付けや衣装や展示物の配置を行いました。大人数での作業はすいすいと進み、いよいよ新宿での展示会の開催を待ちます。

JR総連・JR貨物の皆さんらと協会事務所の前でこれから展示品の搬送です。頑張って！

このパネルはどこに置こうか

会場セッティング　展示の目立つ配置を考えて。

うーん重たいなあ

配置が決まればあとは協力して荷物を移動です。

試着もOK！あなたのお気に入りの一着は？

当協会の活動記録の展示

これでよし、と

ボランティアの歌川さんがマネキンに衣装を着せると、会場は華やぎます。

会場を彩る展示物

展示物

雲南省特産品（プーアル茶・田七等）民族衣装・少数民族紹介パネル・協会紹介パネル・トンパ芸術品・トンパ紹介パネル・雲南関連書籍 etc.

雲南少数民族風情展

雲南省の素敵な文化をこれからも、たくさんアピールしましょう！

今回の共催、アクロス新宿の支店長車さんと初鹿野理事長

チラシ配りも大変だ…

ボランティアのJR貨物高木さん・佐藤さん

これ、ペー族の衣装なんですよ！

お客様と談笑するボランティア北原病院の工藤さん

笑顔

素敵な衣装に囲まれて…
はい、チーズッ

左から）ボランティアの歌川さん、初鹿野理事長、
天真会の青木さん、吉田さん

似合ってるでしょう？

ボランティアの若者たち　ここは雲南？民族村！？

雲南省のお菓子はいかが？

後ろはトンパコーナーです

元事務員の大久保さんとボランティアの羅さん

ご来場者からの感想

今回の雲南省の展示会は衣装の試着ができたり、現地のお菓子を食べたりと初体験がたくさんできて楽しかったです。私は、雲南省についてほとんど知らなかったのですが、この展示会をきっかけに、雲南省の雰囲気を感じることが出来ました。その中で私が1番印象に残っているのは、「瓢箪笛」です。あの笛はインテリアとしても格好が良いなと思い見ていたら、「吹いてみていいですよ」のお言葉に甘え、いざチャレンジ！きれいな音は出ませでしたが、雲南省に行ったみたいな1日でした。

前田亜由美

前田さんは現在日本大学の4年生。この展示会をきっかけに協会に興味を持ち、今事務局でボランティアとして週一日お手伝いに来てくれています。

INFOMATION

雲南省への旅　参加者募集！

天真小学校にて
ミャオ族の女の子

日　時：2004/10/12～10/19
行き先：昆明・麗江・シーサンパンナ

雲南省昆明・麗江・シーサンパンナの**観光がメイン**の旅行です。費用・日程などの詳細は次号会報インフォメーションにてお知らせします。興味のある方は事務局までお問い合わせください。

また、当協会主催で、**第6校目小学校の開校式をかねての雲南旅行**についても、10月を予定しています。建設地決定・建設状況などをみて日取りを決め、参加者を募集しますので今しばらくお待ちください。

日本・雲南聯誼協会の協力の下、テレビ朝日の撮影隊が雲南省の棚田を撮影しました。全4回に分けての撮影スケジュールのうち、すでに2回は終了しています。

季節により移り変わる雲南省の自然、世界一の広さを誇る元陽の棚田を主な題材として撮影しています。総面積約24,000ヘクタール、山の中腹から谷底までの斜面を余すところなく埋め尽くす棚田。この棚田で行われる田植えから刈り入れまで、撮影隊は四季を追って取材するそうです。今回は春の棚田・菜の花畑やそこに暮らす少数民族ハニ族を撮影し、無事に帰国しました。

番組の監督・大谷映芳さんと、フリーライター・通訳で当協会会員の麻野久美さんは当協会事務局を訪れ、帰国の報告もかねて初鹿野理事長と会談しました。雲南省の素晴らしさ・美しさが広く世間に紹介されることは当協会にとってもうれしいこと、ぜひ素敵な、雲南省の魅力あふれる番組に仕上げてもらいたいです。なお、放送はテレビ朝日「報道ステーション」という番組内で10月に予定しています。楽しみですね！

山の斜面に広がる美しい棚田と
ハニ族の子供

当協会の会員で、中央大学文学部教育学科教授の島田修一先生が社会教育の入門書『知を拓く学びを創る』（つなん出版）を出版されました。先生はこの本にこめた思いを次のように語っています。

「ここには、社会教育現場は言うまでもなく、地域福祉、児童館、地域文化活動の実際活動に従事する中でとらえた視野や課題、あるいは自治体の自立的発展を目指す市民運動や自治体労働運動に取り組む中で生み出していった地域作りの展望など、これからの地域社会活動の世界をどう創造していくかについての熱い思いがこもっています」。

知を拓く学びを創る

初鹿野理事長は、以前に島田先生のゼミで1年半学んでおりました。島田先生は雲南省の教育にも非常にご熱心、雲南省を訪問したこともあり、いつも協会を温かく見守ってくださっています。
ぜひ書店でお手にとってご覧ください。

雲南省にも日本の梅雨のように雨季（5月～8月の間。地域により時期は異なる）があるのです。

雲南ミニコラム　「雲南十八怪」ってなあに？

雲南省は、中国の他の地域とは違う独特の習慣を数多く持っており、それらは「雲南十八怪」（雲南の18不思議）と言われています。十八怪といっても決して怖い怪談話ではないのでご安心を。そのいくつかを挙げてみましょう。「雲南省では菅笠を鍋のふたにする」「雲南省では玉子を持ち運ぶ時に並べてわらで包む」「雲南省ではベトナム行きの鉄道の方が便利だ」「雲南省ではお坊さんに恋人がいる」などなど…「雲南省ではおばあさんがやたら元気だ」なんていうのもあり、なかなかおもしろいですよね。最近では「雲南新十八怪」もあるそう、これはまたの機会に紹介したいと思います。